【From Kobe 2014.6月】　June Bright 春から夏へ 梅雨時前の輝きの中で 【1】

６月になりました　野山も里も春から夏へ　様相を変えるのに忙しい梅雨時前の息吹き

◆ ６月の到来を告げる花　ばら・花菖蒲・紫陽花　2014.5.30.　神戸須磨離宮で

今年もほのかなバラの香りが漂い、池では花菖蒲が咲き出しました











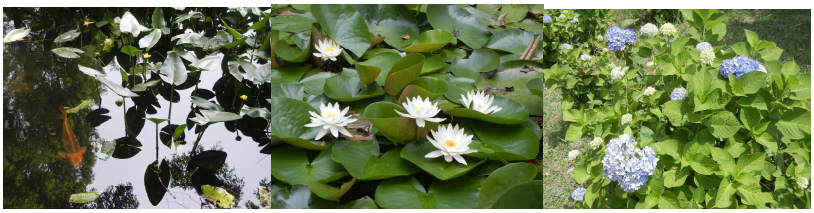












◆　東播磨の田園では　麦秋と水が入った田地が交差する　西神戸で

田畑に響く鳥の声　そして　梅雨時前の準備で　忙しく働く人の声が聞こえてくる

ゆったりとした時の流れに身を置く心地よさ

でも　この日　PM2.5が最高値に　遠くかすむ明石の海　海峡大橋はほとんど見えず



西神戸　雌岡山から眺めた西神戸の田園　2014.5.29.





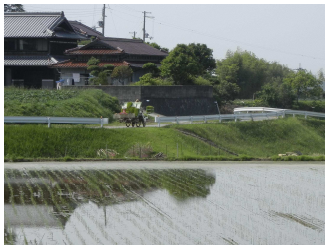


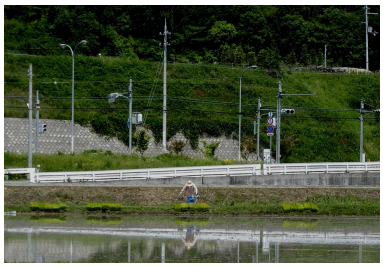


麦秋を迎えた西神戸　稲美の麦畑　　2014.5.20.











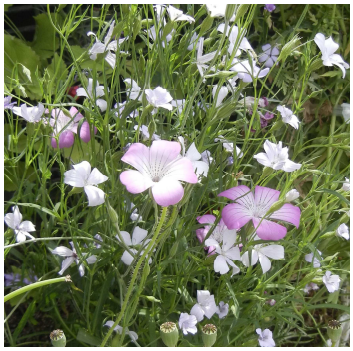


田植えの準備に忙しい西神戸の田園　2014.5.29.

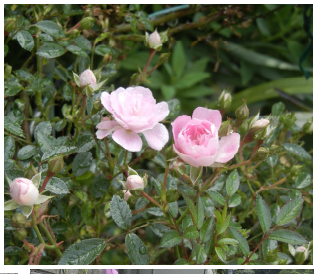
◆　庭に咲いた草花　今年はことのほかバラが美しく咲きました　念願のモッコウばらのアーチも

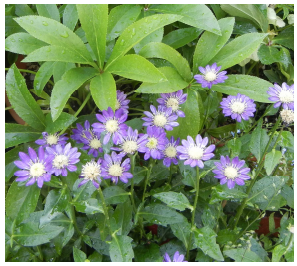












◆　若者たちの中に飛び込んで　元気一杯






グリンスタジアム神戸で　応援に熱狂する若者たち　2014.5.23.




加古川の土手を行く高校生たち 2014.5.20.

【From Kobe 2014.6月】　June Bright 春から夏へ 梅雨時前の輝きの中で　【2】

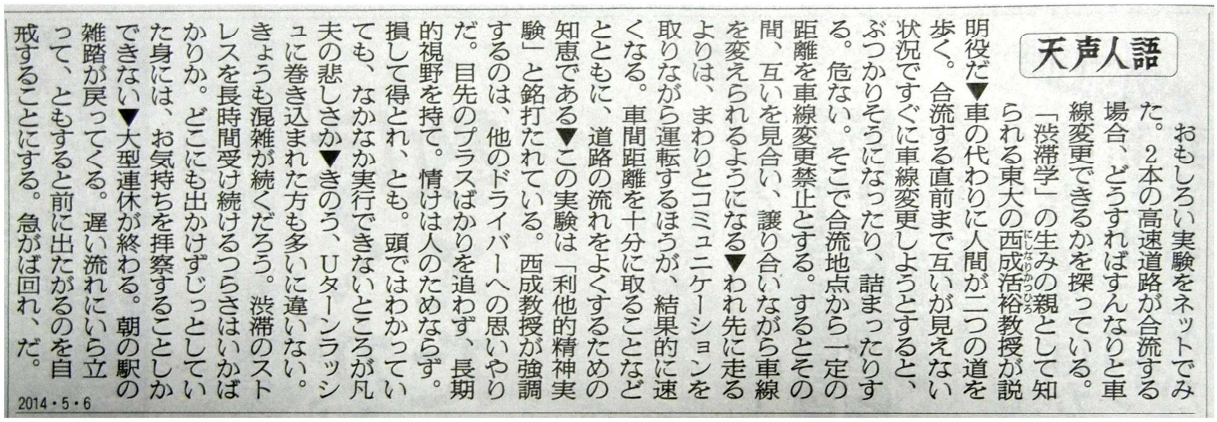
６月になりました　野山も里も春から夏へ　様相を変えるのに忙しい梅雨時前の息吹き

◆　**競争社会から成熟社会へ移行する日本に必要なのは「縄文かえり・心の優しさ」では・・・**

朝日新聞天声人語にこんな記事が・・・

ヒューマンを特徴づける「利他的精神」がこんなところにも

2014.5.6.　朝日新聞「天声人語」より



天声人語

おもしろい実験をネットでみた。2本の高速道路が合流する場合、どうすればすんなりと車線変更できるかを探っている。「渋滞学」の生みの親として知られる東大の西成活裕（にしなりかつひろ）教授が説明役だ▼車の代わりに人間が二つの道を歩く。合流する直前まで互いが見えない状況ですぐに車線変更しようとすると、ぶつかりそうになったり、詰まったりする。危ない。そこで合流地点から一定の距離を車線変更禁止とする。するとその間、互いを見合い、譲り合いながら車線を変えられるようになる▼われ先に走るよりは、まわりとコミュニケーションを取りながら運転するほうが、結果的に速くなる。車間距離を十分に取ることなどとともに、道路の流れをよくするための知恵である▼この実験は「利他的精神実験」と銘打たれている。西成教授が強調するのは、他のドライバーへの思いやりだ。目先のプラスばかりを追わず、長期的視野を持て。情けは人のためならず。損して得とれ、とも。頭ではわかっていても、なかなか実行できないところが凡夫の悲しさか▼きのう、Uターンラッシュに巻き込まれた方も多いに違いない。きょうも混雑が続くだろう。渋滞のストレスを長時間受け続けるつらさはいかばかりか。どこにも出かけずじっとしていた身には、お気持ちを拝察することしかできない▼大型連休が終わる。朝の駅の雑踏が戻ってくる。遅い流れにいら立って、ともすると前に出たがるのを自戒することにする。急がば回れ、だ。

2014・5・6

人間が人間たる由縁は「他を思いやる心」を持っていること。 現生人類が現代にまで、幾多の苦難を乗り越え、
文明を発展させて　今まで生き延びることが出来たのは、この「他を思いやる心・利他的精神」を持ち合せていたからだという。
そんな「心やさしき」縄文人は　世界3大文明に先駆け、縄文文化を花開かせ、日本人の心のふるさととなった。
激しい競争社会が展開させる現在　今一度　この人類史の現実をみつめ直す必要がある。
ややもすれば　自己責任を強要する現代社会への警鐘　こんな身近な例からも社会を考えるヒントがある。

2014.5.6.　from Kobe Mutsu Nakanishi

私はよく「心優しき縄文人　縄文帰り」の言葉をよく使うのですが、「核・武装」を持って他を征しても、決して平和をもたらさないことそして、「自己責任を強要する過酷な競争社会が幸せな暮らしをもたらさない」ことに　多くの人が気づき始めている。

また、限界集落と騒がれた時代から今や放っておけば、地方都市までもが、がここ数十年で多数消滅してしまうことが、現実を持って語られる。そして、これらを解決する方法として　過度な中央集権を捨て　里山主義・地域活性に舵を切ることを唱える人々が多くなってきた。

また、地球の厳しい気候変動の中を生き延び、現在の人類の繁栄をもたらした由縁が　唯一「他を思いやる心」にあったこと、そして　環境変化の厳しい縄文時代この狭い日本列島で、数千年にわたり豊かな暮らしを保ちえたのも「心優しき縄文人」であったからだと説く人たちの声が大きくなっている。

人類の生きながらえてきた歴史の道を眺めると過酷な環境変化と食糧難に直面して、数多くの道が次々と閉ざされてゆく中で、たった一つ「他を思いやる心」から、数々の知恵を編み出し、協力して困難を克服したグループだけが今に命をつないできたことを示している。「人が人に武器をむけては生きてゆけず、いずれ滅亡の道をたどる」と。



「何千何万年前の記録などないのに、なぜそんな事が言えるのか??」との疑問もあろうが、日本には何万年にもわたる地球の記録を正確に残し伝えてくれている場所がある。

何万年もの間　荒らされることなく静かにその時々に生きた動植物・そして環境変化の記憶を一年ごとに封じ込め、年縞模様として正確に記録してきた地球の物差し　若狭　三方五湖の一つ早月湖の底に堆積した年縞で、水月湖は水面から湖底までは 34 メートル。その湖底の下には堆　積した 73 メートルの泥の堆積層がある。このうち、上部 45m に 7 万年分の「年縞」があることがわかっている（下部の 28m は「年縞」がない 15 万年分の泥）。

この約 7 万年かけて積もった 45 メートルの堆積泥が 1 センチの欠けもな

く連続して得られれば、世界初の７万年分の歴史のモノサシになる。日本では年輪年代法が確立され、年代校正曲線として広く知られるようになったが、長年にわたる年縞年代測定研究の推進リーダー環境考古学者　安田喜憲氏たちの研究の成果として、数万年にわたる地球年代計測の校正曲線として、この早月湖の年縞が国際標準として採用され、　日本列島を含め、世界の地球環境変化の歴史が明らかになってきた。

この年縞年代測定研究の推進リーダー安田喜憲氏もこれらの研究成果を踏まえ、厳しい地球環境変化の中、約 8000 年にわたって、豊かな森の生活を持続させた縄文社会の生き方を学ぶべきだという。

「自然との共存、人と人との平等、家族の絆」という縄文社会の人々の生き方に学ぶべきだと訴える。

- 安田喜憲著「一万年前 気候大変動による食糧革命、そして文明誕生へ」
- NHK スペシャル取材班著「ヒューマンヒューマン なぜヒトは人間になれたのか」

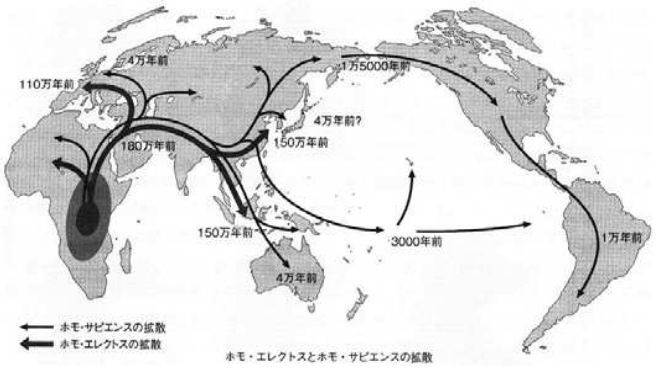
まだ　経済最優先の今このことを「なまちょろい」と考える人も多いが、これは歴然としてきた人類がたどってきた道である。　いま　一度　この人類が歩んだ道を見るべきだと・・・・。

こんなことを IT 情報社会にﾄﾞｯﾌﾟりとつかった若い人たちに伝えればよいのだろうか??? と思い悩んでいた時に、朝日新聞の天声人語に上記の記事が掲載されました。

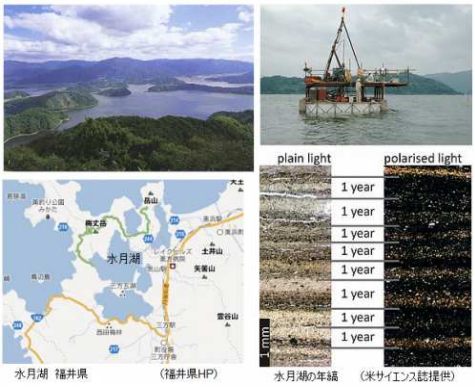
社会が大きく動いている今の時代　こんな見方もあるのだと・・・・・・。

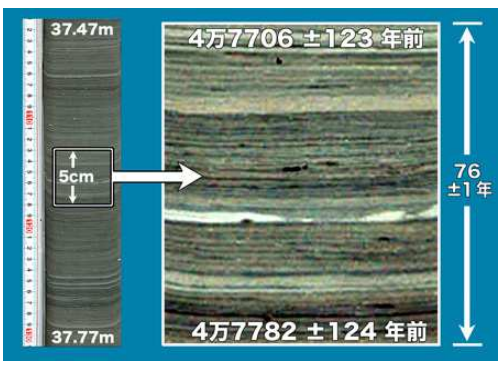


地球 最終氷期の気候



ホモエレクトス・ホモサピエンスの拡散





水月湖の「年縞」の一部。下図は湖底の堆積層のボーリングで得たコアの一部で上下の数字は掘削したコアの深度。5 センチ幅の中に 76 年±1 年の「年縞」がきれいに残っていることがわかる。

年縞からわかること

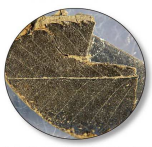
1年単位で年代を特定できる年縞には、木の葉や花粉、火山灰や黄砂などが含まれています。それらを分析することによって、過去の気温や水温、気候などの変化を年単位で復元することが可能です。

7万年にわたり堆積した水月湖の年縞は、過去の自然環境を知る貴重な情報源であるといえます。

年縞からわかる過去の気候変動

年縞に含まれる落葉や花粉からは…

年縞に含まれる葉や花粉の化石からは、湖周辺に生育していた植物の種類や、その当時の気候、環境がわかります。植物の種類の移り変わりを調べることで、気候や環境の変動を知ることができ、年縞によって当時の様子を年単位でくわしく知ることができます。



水月湖の年縞に含まれていた葉の化石（写真提供：水月湖プロジェクト）



年縞に含まれる火山灰・黄砂からは…

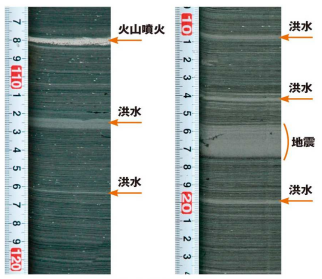
年縞には、火山灰や大陸から偏西風に乗って飛んでくる黄砂も含まれています。火山灰からは火山が噴火した年代、黄砂からは偏西風の風向きの変化などを知ることができます。



堆積状況の変化からは…

非常に薄く堆積していく年縞ですが、よく見ると、厚く積もったところや、色が違うところがあります。これらは地震や洪水の跡です。地震が起きると、湖の周りから大量の土砂が流入し、厚い層が形成されます。洪水が起こった時も堆積状況に変化が見られます。

水月湖の年縞を調べると、地震によってできた厚い層が、過去3万年の間に12か所見つかりました。地震や洪水の履歴は、将来の災害予測への活用が期待されています。

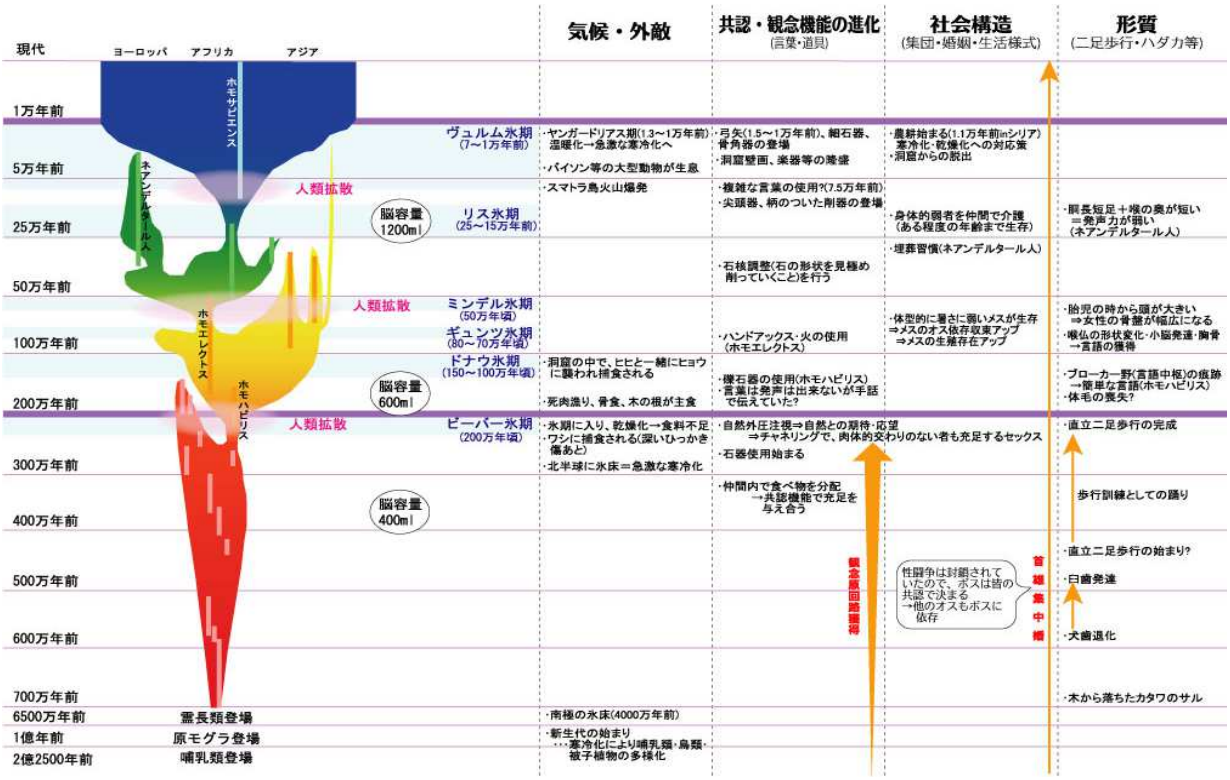


水月湖の年縞（部分）

＜ 参 考　同じことの繰り返しですが、　縄文帰りを　From Kobe で述べた記事 ＞

【人類の進化　歴史年表】





◆ From Kobe 2010.11 月より

縄文がえりの勧め　　心優しき縄文の村

幼くしてポリオにかかった少女が　縄文の村で　みんなに守られ　ずっと暮らしていた

「景色のいい素晴らしい高台に暮らす心優しき縄文人」　「縄文のこころを映すストーンサークル」と縄文に魅せられて縄文の遺跡を訪ねはじめて、もう 10 数年になる。

先日　テレビを見ていたら

「 狩猟・採取　自分の食糧確保に精一杯であった縄文時代に
4000 年前の北海道の縄文の村で　幼くして小児麻痺にかかった少女が
成年期を経て一生みんなに　見守られて　その村で暮らしていた。
その痕跡を示す骨が北海道洞爺湖の近く噴火湾や有珠山を望む入江貝塚縄文遺跡でみつかっている　」と。

■ 入江・高砂貝塚縄文遺跡



北海道洞爺湖の近く噴火湾や有珠山を望む海岸の高台にある縄文時代前期から後期(約 5000～ 3500 年前)にかけて形成された貝塚・住居・墓を伴う大規模な集落。

http://www.town.toyako.hokkaido.jp/iritaka/index.html

http://www.pref.hokkaido.lg.jp/ks/dbs/joumon/remains/is_irietakasago01.htm

● ポリオで20歳まで生きた 縄文時代、家族が介護？

西日本新聞 「先人たちのカルテ 病とともに」 2008 年 11 月 02 日の記事より 抜き出し

http://qnet.nishinippon.co.jp/medical/doctor/feature/post_673.shtml



1966、67年に北海道洞爺湖町の縄文時代の入江貝塚で出土し、「入江9号」と名付けられた約4000年前の人骨は、頭部が普通の大きさなのに、両腕と両脚が極端に細い。指や足の骨は、長い年月の間に分解し消えていた。

何らかの理由で四肢がまひして寝たきりとなり、筋肉が衰えて運動もできなかったため、骨が発達しなかったとみられる。鑑定した東京都老人総合研究所の鈴木隆雄副所長は「おそらく、ポリオ（小児まひ）の患者だろう」と推測する。

ほかの動物に狩猟・採取の生活をみると
「乳離れするまでは 面倒を見るにしろ
狩猟・採取の移動の中で 群れについてゆけなくなると置いてきぼり」
それが狩猟・採取の生活の厳しさである。
そんな縄文狩猟・採取の時代に 幼くして小児麻痺にかかった少女が
成年期を経て一生 多くの人たちに見守られ
てその村で暮らしていた。



「先祖を葬った墓地の広場を丸く取り囲んで竪穴住居を連ねて暮らす縄文の村」「ストーンサークルでの祭」そして「再生を願う渦巻文様」などなどが「戦さを知らぬ心優しき縄文人」の精神生活を示す象徴と言われてきましたが、直接その痕跡を見ることができなかった。

現代人が忘れかけている「こころの優しさ」を見るような気がしています。
この北海道洞爺湖の近く 噴火湾を望む海岸の高台にある入江・高砂貝塚縄文遺跡が「北海道・北東北の縄文遺跡群」として三内丸山縄文遺跡などとともに世界遺産の暫定リストに組み入れられていると。
うれしくなってしまいました。

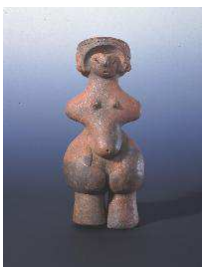
蛇足ですが、「文字」の発明が「人間の文明・文化」を大きく発展させたとも聞く。
文字の発明が 事象を過去・現在・未来 ときっちり整理して コミュニケーション・伝達を円滑にしたことが
規律・社会性 そして複雑な道具を発明し、人間社会を円滑にしてきた。
遠くそんな文字のない縄文人でさえ、社会性を身に着けている。
急速に文字離れが進行し 「ビジュアル・デジタル・スピード」がもてはやされ、
ひとりよがりの即物的な対応が社会の中心にある今、本当にこれでよいのか… と。

何か もっと先を眺めた知恵があるのではないか? と思える時代である。
今年の秋 ある仲間の縄文訪問ツアーの展示で「輪を持って貴し」の言葉を見ました

美しい縄文の村の高台にすわって ほっと一息 周りを眺めるのもよいものと
またまた 縄文がえりの勧めです。

2010.11.5. by Mutsu Nakanishi


仮面の女神


縄文のビーナス


合掌土偶


縄文の女神


中空土偶

「戦さを知らぬ縄文人」「こころの故郷・心やさしき縄文人」としてしばしば語られる「縄文」
「日本人の心の奥深さ・多様なこころ」がそこにある。


鹿角　大湯ストーンサークル


鷹巣　伊勢堂岱遺跡


青森　小牧野遺跡

縄文のこころを映すストーンサークル
心の奥底にしまいこんだ「心のやさしさ」「おもてなし」の「日本人の心の故郷」に立ち帰ろう。

2014.6.1.　from Kobe　By Mutsu Nakanishi

【　参　考　】

- **安田喜憲著「一万年前 気候大変動による食糧革命、そして文明誕生へ」**
- **NHK スペシャル取材班著「ヒューマンヒューマン なぜヒトは人間になれたのか」**

【　関連掲載　和鉄の道　From Kobe by Mutsu Nakanishi　】

◎　新書藻谷浩介・NHK 広島取材班「里山資本主義-日本経済は『安心の原理』で動く-」の紹介
「里山資本主義 ＆　内橋克人氏の提案する地域自立自給経済圏」創設の実践
http://www.infokkkna.com/ironroad/2013htm/2013mutsu/fkobe1309.pdf

◎　縄文がえりの勧め 心優しき縄文の村
http://www.infokkkna.com/ironroad/2010htm/2010mutsu/fkobe1011.pdf

◎　縄文の心を映すストーンサークル
http://www.infokkkna.com/ironroad/dock/iron/7iron13.pdf

◎　「ヒューマン なぜヒトは人間になれたのか」 視聴・購読メモ
http://www.infokkkna.com/ironroad/2012htm/iron8/1204human.pdf

◎　和鉄の道　Iron Road 「縄文」掲載リスト
http://www.infokkkna.com/ironroad/dock/ironjyomon.htm

ほか